

## 「指揮法Ⅰ」における教材研究

— Dolly's Dreaming and Awakening Op.202-4 (Theodor Oesten 1813-1870) を用いて —

木 許 隆

岐阜聖徳学園大学短期大学部

Researching teaching materials for the command method:  
“Dolly's Dreaming and Awakening” Op.202-4 (Theodor Oesten 1813 - 1870)

Takashi KIMOTO

キーワード：教材研究 音楽 指揮 バトンテクニック

### I. はじめに

西洋音楽における指揮の歴史は古く、中世の教会音楽の聖歌隊に対して音楽の流れを指示したことに由来する。そして、バロック時代には器楽の演奏が盛んになり、現在のコンサートマスターが音を出すきっかけやバランスを指示するようになった。また、楽器の発達とともに大編成の楽曲が作曲されるようになり、専門職の指揮者が必要となった。

本学の授業では、教育学部学校教育課程音楽専修2年生に「指揮法Ⅰ」及び「指揮法Ⅱ」を開講している。「指揮法Ⅰ」では、指揮の歴史、指揮法の分類、基礎となるバトンテクニックを学習し、「指揮法Ⅱ」では、ソナチネアルバムや教育現場において使用されている合唱曲などの楽曲を用いて実践を展開している。そして、授業終了時には、学生自身が読譜した後、子どもの音楽力を引き出すことのできる指揮ができるようになることを到達目標としている。

本研究では、指揮の歴史的背景からバトンテクニックを見直した指揮法の研究：木許（2009）<sup>1)</sup>、2拍子の単純な図形の中に、的確な指示を加える指揮法の研究：木許（2012）<sup>2)</sup>をもとに、「指揮法Ⅰ」のまとめとして用いることができる教材を探したいと考えている。そして、“Dolly's Dreaming and Awakening Op.202-4 (Theodor Oesten 1813-1870)”<sup>3)</sup>を用いて、楽曲を導く様々なバトンテクニックについて明らかにしたいと考えている。

### II. 研究目的と方法

本研究は、教育学部学校教育課程音楽専修2年生において開講されている「指揮法Ⅰ」に用いることのできる教材を探すことを目的としている。そして、筆者がピアニストに対して“Dolly's Dreaming and Awakening Op.202-4 (Theodor Oesten 1813-1870)”<sup>3)</sup>を指揮しながら、楽曲を導く様々なバトンテクニックについて明らかにするものである。

### III. 研究内容

“Dolly's Dreaming and Awakening Op.202-4 (Theodor Oesten 1813-1870)”は、Cradle Song-Dolly Sleeps : Andante con moto, 3/4、Dolly's Dream-Dolly Awakes : Moredato, 4/4、Dolly Dances : Allegro moderato, 2/4の三部から構成されている。

#### (1) Cradle Song-Dolly Sleeps : Andante con moto, 3/4

第一部の冒頭に「Andante con moto (歩くような速さで、動きをつけて)」の速度記号および発想記号が記され、「piano (弱く)」の強弱記号が記されている。予備運動は、“平均運動”を用いて3拍子第3拍の点後運動を描くように指揮する。

第1小節の第1-3拍は“平均運動”を用いて指揮する。そして、図形は小さくまとめる。第2-3小節は第1小節と同様に“平均運動”を用いて指揮する。第4小節は二つの指揮が考えられる。まず、第1-3拍は“平均運動”を用いて指揮するが、第2拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1拍にある4分音符の音価を守る指揮である。次に、第1拍は点を打つと同時に腕を停止し、第2拍は“数取り”による音の処理の指示、第3拍は“中間予備運動”を行う指揮である。第5-7小節は第1-3小節と同様に指揮する。第8小節は第4小節において考えられる二つの指揮の一方を選択しながら、第9小節に記されている「mezzo piano（やや弱く）」を導くよう第3拍の点後運動の図形をやや大きくする。（譜例1）

譜例1

Cradle Song

Andante con moto

第9小節の第1-3拍は“平均運動”を用いて指揮する。そして、図形はやや大きくする。第10-12小節は第9小節と同様に“平均運動”を用いて指揮する。第11小節は第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1-2拍にある2分音符の音価を守る。第12小節は第13小節に記されている「piano」を導くよう第1-3拍にかけて図形を小さくしていく。第13小節の第1-3拍は“平均運動”を用いて指揮する。そして、図形は小さくまとめる。第14-16小節は第13小節と同様に“平均運動”を用いて指揮する。第15小節は第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1-2拍にある2分音符の音価を守る。第16小節は第17小節に記されている「mezzo piano」を導くよう第3拍の点後運動の図形をやや大きくする。

第17-20小節は第9-12小節と同様に指揮する。第21小節の第1-3拍は“平均運動”を用いて指揮する。そして、図形は小さくまとめる。第22-23小節は第21小節と同様に“平均運動”を用いて指揮する。第23小節は第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1-2拍にある2分音符の音価を守る。また、第24小節の第1拍に記されている「accent（その音を強く）」を導くよう第3拍の点後運動の図形をやや大きくする。（譜例2）

譜例2

第24小節の第1拍は“しゃくい”、第2-3拍は“平均運動”を用いて指揮する。そして、図形は小さくまとめる。第25小節の第1-3拍は“平均運動”を用いて指揮し、第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1-2拍にある2分音符の音価を守る。第26小節の第1拍は“しゃくい”、第2-3拍は“平均運動”を用いて指揮する。第27-28小節は“平均運動”を用いて指揮する。また、図形をだんだん小さくすることによって「dim.（だんだん弱く）」を指示する。さらに、第28小節ではテンポをだんだん遅くすることによって「rall.（だんだんゆるやかに）」を指示する。第29小節の第1拍は点を打つと同時に腕を停止し、第2拍は“数取り”、第3拍は“中間予備運動”を用いて指揮する。また、第2拍は左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1拍にある4分音符の音価を守る。第30小節の第1拍は“置き止め”を用いて「fermata（その音を十分にのばして）」を指示し、左手による

音の処理（右回り）の指示を加える。（譜例3）

譜例3

*Dolly Sleeps*

L.H.

*dim. e rall.*

*pp*

24 25 26 27 28 29 30

## (2) Dolly's Dream - Dolly Awakes : Moderato, 4/4

第二部の冒頭に「Moderato（中くらいの速さで）」の速度記号が記され、「piano（弱く）」の強弱記号が記されている。予備運動は、“しゃくい”を用いて4拍子第3拍の点後運動を描くように指揮しアウトタクトを導く。

第31小節の第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮する。そして、図形は小さくまとめる。第32小節は二つの指揮が考えられる。まず、第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第2拍にある4分音符の音価を守る指揮である。次に、第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第3拍の点後運動の図形をやや大きくすることにより第4拍から始まるフレーズを導く指揮である。第33小節の第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮する。第34小節は二つの指揮が考えられる。まず、第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1-2拍にある2分音符の音価を守る指揮である。次に、第1-2拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第3拍は点を打つと同時に腕を停止することによって音の処理を指示する。また、第4拍は“はねあげ”によってフレーズを導く指揮である。

第35-37小節は第31-33小節と同様に指揮する。第38小節は第34小節において考えられる二つの指揮の一方を選択しながら、第4拍に記されている「mezzo piano」を導くよう点後運動もしくは“はねあげ”の図形を大きくする。（譜例4）

譜例4

*Dolly's Dream*  
Moderato

*p*

31 32 33 34

35 36 37 38

*mp*

第39小節の第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮する。そして、図形はやや大きくする。第40小節は二つの指揮が考えられる。まず、第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第2拍にある4分音符の音価を守る指揮である。次に、第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第3拍の点後運動の図形をやや大きくすることにより第4拍から始まるフレーズを導く指揮である。第41小節の第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮する。第3-4拍は図形をだんだん大きくする、もしくは左手の手のひらを滑らかに上げながら「cresc.（だんだん強く）」を導く。第42小節の第1拍は“しゃくい”、第2拍は“先入”を用いて指揮すると同時に、左手の手のひらを滑らかに下げながら「rall.」、「dim.」を導く。第3拍は“反動叩き止め”、第4拍は“はねあげ”によってフレーズを導く。また、第3拍の腕を停止したのち、左手による音の処理（右回り）の指示を加えることも考えられる。（譜例5）

譜例 5

第43-45小節は第31-35小節と同様に指揮する。第46小節は二つの指揮が考えられる。まず、第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第1拍に記されている「forzando（その音を強く）」を導くために第1拍の点前運動のみを鋭く打つ。そして、第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え、第1-2拍にある2分音符の音価を守る指揮である。次に、第1-4拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第1拍に記されている「forzando」を導くために第1拍の点前運動のみを鋭く打つ。また、第3拍の点后運動の図形をやや大きくすることにより第4拍から始まるフレーズを導く指揮である。第47-48小節は第45-46小節と同様に指揮する。第49小節は第47小節と同様に指揮する。

第50-51小節の第1拍は点を打つと同時に腕を停止し、第2拍は“はね上げ”によって16分音符を導く、第3拍は点を打つと同時に腕を停止し、第4拍は“はね上げ”によって16分音符を導く。第52小節の第1拍は点を打つと同時に腕を停止し、第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加える。この場合、テンポが遅くならないよう注意しなければならない。（譜例6）

譜例 6

### (3) Dolly Dances : Allegro moderato, 2/4

第三部の冒頭に「Allegro moderato（軽快な速さで）」の速度記号が記され、「piano（弱く）」の強弱記号が記されている。予備運動は、“打法”を用いて2拍子第2拍の点后運動を描くように指揮する。

第53小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮する。そして、図形は小さくまとめる。第54小節の第1拍は“打法”、第2拍は“しゃくい”を用いて4分音符の浮遊感を持たせるよう指揮する。第55-56小節および第57-58小節は第53-54小節と同様に指揮する。第59小節の第1拍は“打法”、第2拍は“しゃくい”を用いて4分音符の浮遊感を持たせるよう指揮する。第60小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮するが、第60小節の第1拍に記されている「forte（強く）」を導くよう第2拍の点后運動の図形を大きくする。（譜例7）

譜例 7

Dolly Dances  
Allegro moderato

第61小節の第1-2拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第1拍に「accent」が記されているため、第1拍の図形を大きく、第2拍の図形を第1拍に比べてやや小さく指揮する。第62小節と同様に指揮する。第63小節の第1拍は“しゃくい”、第2拍は“打法”を用いて指揮する。第64小節は第63小節と同様に指揮する。第65-66小節は第61-62小節と同様に指揮する。第67小節の第1-2拍は“しゃくい”を用いて指揮する。第68小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮するが、第69小節の第1拍に記されている「piano」を導くよう第2拍の点后運動の図形を小さくする。

第69-75小節は第53-59小節と同様に指揮する。第76小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮するが、第61小節もしくは第77小節の第1拍に記されている「forte」を導くよう第2拍の点後運動の図形を大きくする。(譜例8)

譜例8

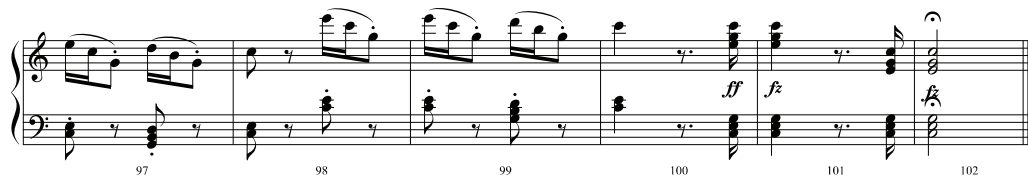
第77小節は二つの指揮が考えられる。まず、第1-2拍は“打法”を用いて指揮する。次に、第1-2拍は“瞬間運動”を用いて指揮し、「stacc. (その音を短く)」を導く指揮である。第78小節は第77小節で選択した方法と同様に指揮するが、第79小節の第1拍に記されている「piano」を導くよう第2拍の点後運動の図形を小さくする。第79小節の第1-2拍は“しゃくい”を用いて指揮する。第80小節の第1-2拍は“しゃくい”を用いて指揮するが、第81小節の第1拍に記されている「forte」を導くよう第2拍の点後運動の図形を大きくする。第81-83小節は第77-79と同様に指揮する。第84小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮するが、第1拍の裏拍から始まるフレーズを導くよう第1拍の点前運動の図形を大きくする。(譜例9)

譜例9

第85小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮するが、第2拍に記されている「forzando」を導くよう第1拍の点後運動の図形を大きくする。第86小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮する。第87-91小節は第85小節と同様に指揮する。第92小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮する。第93小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮するが、第2拍に記されている「forzando」を導くよう第1拍の点後運動の図形を大きくする。第94小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮する。第95小節は第93小節と同様に指揮する。第96小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮するが、第2拍から始まるフレーズを導くよう第1拍の点後運動の図形を大きくする。第97小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮する。第98-99小節は第97小節と同様に指揮する。第100小節の第1拍は点を打つと同時に腕を停止する。そして、第2拍に左手による音の処理(右回り)の指示を加えると同時に“はねあげ”によって16分音符を導くよう指揮する。第101小節は第100小節と同様に指揮する。第102小節の第1拍は“反動叩き止め”によって腕を停止し、音を十分に伸ばした後、音の処理(右回り)の指示を加え楽曲を締めくくる。(譜例10)

譜例10 (Sua)





#### IV. 結果と考察

第一部は、“平均運動”を用いて指揮することによって安定した「Andante」のテンポと柔らかな音楽の流れを得ることができた。図形は、「piano」や「mezzo piano」の指示があるため、肘を落とした状態を保ち小さくまとめた。第4-5小節や第8-9小節に現れる新しいフレーズへの導入は、柔らかな音楽の流れに重点を置き、左手による音の処理の指示を加える指揮を採用するのが良いと考えた。その場合、第3拍に左手が残らないよう注意しなければならないという課題も見えた。

第9-23小節は、“平均運動”を中心として指揮した。第11, 15, 19, 23小節の第1-2拍にある2分音符の音価を守る部分は、左手による音の処理の指示を加え指揮した。また、第12, 16, 20小節は左手のみの演奏となるため、第1-2拍に“数取り”を用い、第3拍に“中間予備運動”を用いることによって、より明確な指揮になるのではないかと考えた。

第24, 26小節の第1拍は、メロディに「accent」が記されているため“しゃくい”を用いて指揮した。そして、第2-3拍は、“平均運動”を用いて指揮した。この場合、“しゃくい”の部分の図形を大きくせず、腕の加速・減速を用いて指示することによって、より明確な指揮になるのではないかと考えた。第27-2小節は“平均運動”を用いて指揮し、図形をだんだん小さくすることやテンポをだんだん遅くすることによって「dim.」、「rall.」を導いた。第29小節の第1拍は点を打つと同時に腕を停止し、第2拍は“数取り”を用い、左手による音の処理の指示を加え指揮した。そして、第3拍は第30小節を導くよう“中間予備運動”を行った。第30小節の第1拍は“置き止め”を用いて「fermata」を指示し、左手による音の処理の指示を加え指揮した。第26-30小節は第一部の終結部となるため、図形をより小さくし左右の指示が滑らかに進むよう指揮しなければならないという課題も見えた。

第二部は、“しゃくい”を用いて指揮することによって安定した「Moderato」のテンポと流れを持った音楽を得ることができた。図形は、「piano」や「mezzo piano」の指示があるため、肘を落とした状態を保ち小さくまとめた。そして、各フレーズがアウフタクトによって始まるため、小節の途中で指示を加える部分が多く見られた。第32, 36, 40, 44小節の第3拍は、点後運動の図形をやや大きくすることにより第4拍から始まるフレーズを導く方法が音楽の流れを止めない指揮であるとわかった。また、第34, 38, 46, 48小節の第3拍は、点を打つと同時に腕を停止し音の処理を指示し、第4拍の“はねあげ”によってフレーズを導く方法が音楽の流れを止めない指揮であるとわかった。

第41小節の第3-4拍は図形をだんだん大きくすることによって「cresc.」を導く指揮を採用するのが良いと考えた。そして、第42小節の第2拍は“先入”を用いて指揮することにより「rall.」を、図形を小さくしながら「dim.」を導いた。また、第3拍の点を打つと同時に腕を停止し、第4拍は“はねあげ”によってフレーズを導く指揮を採用するのが良いと考えた。

第46小節の第1拍に記されている「forzando」を導くために第1拍の点前運動のみを鋭く打ち、第3拍の点後運動の図形をやや大きくすることにより第4拍から始まるフレーズを導く指揮を採用するのが良いと考えた。

第50-51小節の第1, 3拍は点を打つと同時に腕を停止し、第2, 4拍は“はね上げ”によって16分音符を導いた。第52小節の第1拍は点を打つと同時に腕を停止し、第3拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加え指揮した。

第三部は、“打法”と“しゃくい”を用いて指揮することによって安定した「Allegro moderato」の軽快なテンポと流れを持った音楽を得ることができた。図形は、「piano」と「forte」の差を明確に指示するよう指揮した。第54, 56, 58, 63, 64, 70, 72, 74小節の第2拍は“しゃくい”を用いて4分音符の浮遊感を持たせるよう指揮した。この場合、次の拍の点前運動が曲線にならないよう注意しなければならないという課題も見えた。第61, 62, 65, 66小節は“しゃくい”を用いて指揮するが、第1拍に「accent」が記されているため、第1拍の図形を大きく、第2拍の図形を第1拍に比べてやや小さく指揮した。

第77-78, 81-82小節は、“打法”もしくは“瞬間運動”を用いて指揮することを考えていたが、“はねあげ”によって「stacc.」を導く指揮を採用するのが良いと考えた。そして、「forte」と「piano」のフレーズが入れ替わるため、「piano」を指示するために“手首の叩き”を用いて指揮することも可能ではないかと考えた。

第85, 87-91, 93, 95小節は、第2拍に記されている「forzando」を導くよう第1拍の点後運動の図形を大きくして指揮した。第97-99小節の第1-2拍は“打法”を用いて指揮した。第100, 101小節の第1拍は点を打つと同時に腕を停止し、第2拍に左手による音の処理（右回り）の指示を加えると同時に“はねあげ”によって16分音符を導くよう指揮した。第102小節の第1拍は“反動叩き止め”によって腕を停止し、音を十分に伸ばした後、音の処理（右回り）の指示を加え楽曲を終えた。また、第102小節の音の響きを残したい場合、音の処理（左回り）を用いることも可能ではないかと考えた。

## V. おわりに

本研究において用いた教材“Dolly's Dreaming and Awakening Op. 202-4 (Theodor Oesten 1813-1870)”には、指揮法で用いられる運動の“打法”、“しゃくい”、“平均運動”、“手首の叩き”、“瞬間運動”、“先入”、“はねあげ”、“引っかけ”、“数取り”、“置き止め”、“反動叩き止め”のバトンテクニックを用いて指揮することができた。そして、楽曲のテンポは、「Andante con moto」、「Moderato」、「Allegro moderato」と幅広いものであった。また、楽曲の拍子は、3/4、4/4、2/4と様々であった。さらに、アウフタクトの指示やテンポの変化、強弱の変化など様々な音楽的要素が入っていた。これらのことから、「指揮法Ⅰ」のまとめとして用いる教材として適正なものではないかと考える。

今後、第一部の冒頭に記された「con moto」の指示に対して、「アゴーギグ」を成立させることによって音楽の流れをより動きあるものへ変化させたいと考えている。そして、この教材を用いて指揮法の分類、基礎となるバトンテクニックを学習し、学生自身が読譜した後、子どもの音楽力を引き出すことのできる指揮ができるよう指導したいと考えている。

## 注・文献

- 1) 木許 隆 (2009) : 「教育現場における指揮法の一考察」, 埼玉純真短期大学研究論文集第2号, 49-52.
- 2) 木許 隆 (2012) : 「保育現場および教育現場における指揮法の一考察 - 2拍子の音楽とその指揮法「ドロップスのうた」を用いて-」, 岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第44集, 51-62.
- 3) Dolly's Dreaming and Awakening Op. 202-4 (Theodor Oesten 1813-1870), 全音楽譜出版社, 東京.

